

# 健康♪外来ニュース

腫瘍マーカー

No. 36 令和4年4月15日

## 前立腺がん(PSA)

\*\*\*

PSAは、前立腺上皮細胞で作られる蛋白分解酵素で、精液中の精子の動きを活発にします。前立腺肥大(過形成)で産生が増えるか、がんや前立腺炎で破壊された組織から血中へ漏れて、PSAが高値となります。加齢に伴い高値になるので、年齢階層別基準値の使用が推奨されます。

(50~64歳: ≤3.0ng/ml、  
65~69: ≤3.5、70~: ≤4.0)

## 肺がん

\*\*\*

がんの組織型によって有用なマーカーが異なります。一般的には、CEAに加えて、CYFRA、SCC(扁平上皮がん)、SLX(腺がん)、NSE、ProGRP(小細胞がん)などが測定されます。

## 消化器がん(CEA、CA19-9)、肝臓がん(AFP)

\*\*\*

腫瘍(がん)マーカーは、がん細胞が産生するか、あるいはがんの影響で血中に増加する物質で、画像組織所見の補助診断やがん治療後の経過観察に利用されます。マーカーが高値でも、必ずしもがんが存在するとは言えません。原因がすぐに特定できなくても、がんがあれば徐々にさらに高値になって来るので、慎重に経過観察する必要があります。

CEAは、消化器系(胃・大腸、膵臓、胆嚢・胆道)の他、肺、甲状腺、子宮、卵巣のがんなどで高値になる、臓器非特異的マーカーの代表です。喫煙や加齢でも高値を示すことがあります。がん術後の高値は再発や肝臓転移などを疑います。

CA19-9は、特に膵臓と胆嚢・胆道のがんで高値を示します。胆汁うっ滞、肝炎、膵炎、糖尿病、気管支拡張症、卵巣嚢腫でも高値になることがあります。なお、日本人の約10%(血液型Le<sup>a</sup>陰性者)はCA19-9を産生できないので、疑わしい場合には代わりにDUPAN-2などを測定します。

AFPは、肝臓がん細胞以外にも、肝障害で壊され再生する肝細胞でも産生されて高値となります。AFP高値が続く肝臓病では、肝細胞の壊死再生が繰り返されているので肝硬変や肝臓がんへ進展する危険性が高いと言えます。AFPの構成成分のうちAFP-L3分画が優位なら、がん細胞由来と判断できます。若年女性のAFP高値は卵黄嚢腫瘍を疑います。

PIVKA-IIも肝臓がんマーカーです。ワルファリン投与やビタミンK欠乏状態(下痢、抗菌薬長期投与など)でも高値となります。

## 卵巣がん(CA125)、乳がん(CA15-3)、子宮がん

\*\*\*

CA125は、卵巣がん、子宮内膜症の他、乳がん、消化器がん、肺がん、胸水・腹水でも高値となります。月経期や閉経前女性では高値、血液型O型では低値となります。CA15-3は、再発・転移性乳がんのモニターとして有用です。子宮体がん(95%が腺がん)ではCA125、CA19-9、子宮頸がん(75%が扁平上皮がん、23%が腺がん)ではSCC、CEAが測定されます。



医療法人 祥佑会 5

藤田胃腸科病院

〒569-0086 高槻市松原町17-36

TEL 072-671-5916

FAX 072-671-5919

健康♪外来

水曜日 14:00~17:00(要予約)

担当: 中嶋